

事務事業評価表（補助金等）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	岡谷絹工房補助金			事務事業コード	21316	
2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	担当者	小林 隆
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にかふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	産業の振興	施策	商業の振興	
		事務事業	岡谷絹工房補助金			
		予算科目	蚕糸業対策事業	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
	根拠法令等	なし				

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	10 年度 ~ 29 年度
補助金の種別	協働的団体補助	③ 対象	市民団体、NPO等
④ 制度の内容	シルク岡谷の歴史を後世に伝えるため、シルクの機織りや染色など絹を素材とした作品制作の後継者育成事業に対して、必要経費（上限額20万円）の2分の1を補助する。		
⑤ 積算方法	事業費の1/2以内（上限額20万円）		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	絹を素材としたクラフト製品によって、シルク岡谷の歴史を後世に伝えるとともに、製品の開発や改良に努め、文化的地場産業の振興が図られる。		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	250,000	250,000	200,000	200,000
実際の支出件数	1	1	1	
執行率	0.0%	0.0%	0.0%	
② 金額（円）				
予算額	250,000	250,000	200,000	0
財源内訳				
一般財源	250,000	250,000	200,000	
特定財源	0	0	0	
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	250,000	250,000	200,000	
予算執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
支出額の前年度比		100.0%	80.0%	

③ 29年度の交付先

岡谷絹工房

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性 = 行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ		
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5 3	
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。		0		
③	全ての対象者に交付している。	1			
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。		0		
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1			
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		高い	
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。	1		5 8	
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。	1			
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。	1			
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。	1			
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、使途を検証している。	1			

7 有効性評価		* 有効性 = 成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性 標準	
評価項目		はい	いいえ		
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1			
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1			
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1			
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。		0		
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比		100.0%

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	制作体制の強化及び販路の拡大。商品デザインの研究、新商品の開発等が課題である。
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	岡谷絹工房が主体となった技術の向上に向けた研修や勉強会の開催、販売会等への参加により消費者ニーズの把握に努めるとともに、専門家の意見等を聴取し商品デザインの研究を行う。
改善開始時期	平成30年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------